

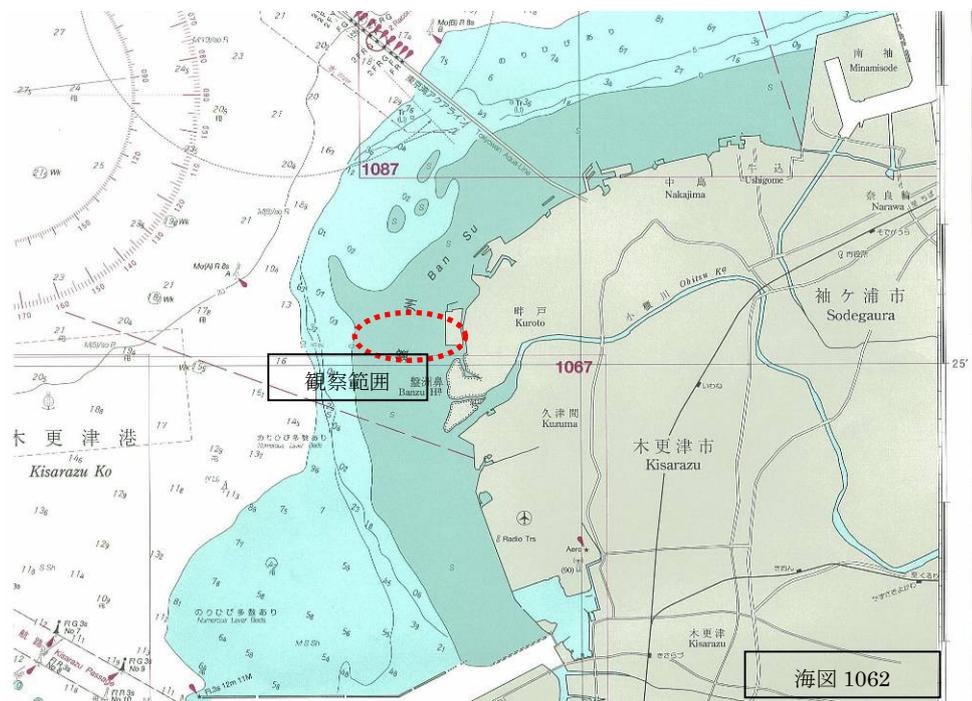
盤洲干潟(金田海岸)の観察

観察者：大野幸正

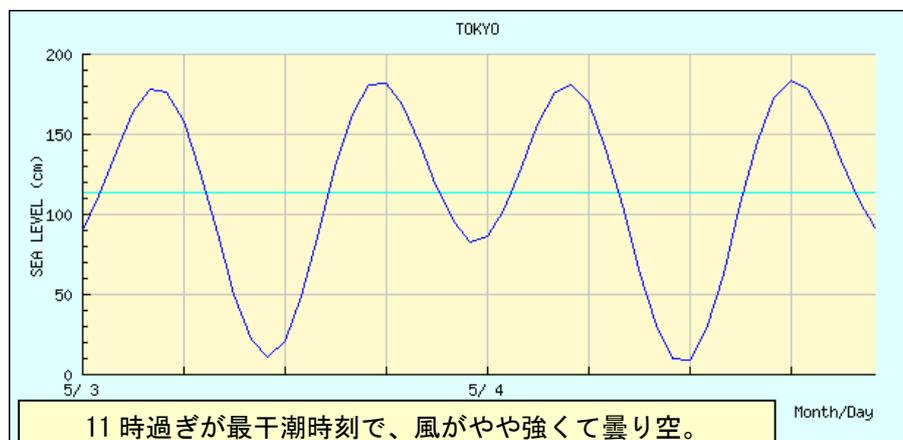
日時：2011年5月3日(火) 9:30-11:30

場所：盤洲干潟(金田海岸の三万坪の潮干狩り場)

観察したのは下図の赤い点線の範囲です。岸際から沖方向を目指して、波打ち際まで行きました。現存量としては、2年前と比べて減少と感じましたが、季節変動、年変動があるものなので、干潟の状況が2年前よりも悪化しているとは言い切れません。「今年も2年前の状況から回復傾向が見られない。」という感じかと思います。干潟の砂泥は、10cm位掘っても嫌気状態ではなかったため、どのような理由で現存量が回復しないかについては不明です。



観察の範囲



推算潮位 (気象庁潮位表：東京)

【三万坪の潮干狩り場】

潮干狩り場の全景は、以下の写真に示すとおりです。埋め立てられた護岸際から 100-300mのあたりに、潮干狩りのお客さん達がたくさん集まっています。この埋立地には、東京湾に面した木更津の温泉「竜宮城ホテル三日月」があり、その駐車場の先に潮干狩り場の入り口があります。

福島第一原子力発電所事故の風評被害の影響を受けているらしくて、2年前に来た時に比べて潮干狩り客が少なかったです。



潮干狩り場

【干潟の岸寄りエリア】

潮干狩り場入口あたりでは比較的泥質で、歩くと少々ぬかるんだ感じがしました。泥の中から、ニホンスナモグリを見付けました。干潟の潮だまりにはマハゼ?の稚魚がおりました。少し探したのですが、アサリは稚貝も見当たりませんでした。



ニホンスナモグリ



ハゼ類

少し沖に歩くと、アサリが見えてきました。2cm に満たない小さなものです。数ミリの稚貝は見当たりません。砂泥の中には、ゴカイの仲間のチロリがいました。



アサリ (シオフキガイはいない)



チロリ

【干潟の沖寄りエリア】

2年前と同様に、沖寄りのエリアでは岸寄りに比べてアサリがさらに減少して、ほとんど姿を見かけることがなく、シオフキガイもほとんどいませんでした。2年前に比べて、バカガイ、マテガイ、キサゴ（ナガラミとも呼ばれる巻貝）は減少していました。



マメコブシガニ



シオフキガイ



ツメタガイ

貝類があまり見当たりません。沖に向かうに従い、砂粒が大きくなるような感じがあります。



途中、ホトトギスガイのマットがありました。側糸でもって貝殻などと絡まり合うので、これが繁殖すると砂表面がマット状となり、アサリが砂に潜れなくなります。漁業者には厄介もの。



バカガイがホトトギスマットの沖で出てきました。小型です。マテガイはほとんどいません。



岸から 1km 程度離れた波打ち際まで来て、ようやくと大きめのバカガイに出会いました。

